

平成28年度第1回倉敷市スポーツ推進審議会 議事録

日時 平成28年7月11日（月）13時00分～14時40分

会場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 審議会委員：松井会長・向井副会長・小野委員・松原委員・宮川委員・
森委員・安田委員・矢田貝委員

事務局：原田部長・三宅次長・北島課長・山本課長主幹・爲房主任・
吉原主事・渡邊主事

教育委員会：荻野主任

傍聴者 0名

1 開会

2 委嘱状交付

任期満了に伴い、新委員10名（内7名は継続）（内出席者8名）に対し、原田文化観光部部長より委嘱状を交付。委員、事務局ともに自己紹介を行った。

3 役員選任

協議の結果、以下の通り決定。

会長：松井 守

副会長：向井 彰

松井新会長よりあいさつ。

4 報告事項

報告第1号 倉敷市スポーツ振興基本計画（平成27年度事業）について事務局から基本計画の到達目標について資料を基に説明。

報告第2号 平成27年倉敷市体育章追加受章者について事務局から説明。

〔説明概要〕

既に各委員には電話にて個別に説明させていただいたことではあるが、前回会議で受章者を選考し、2月に表彰式を行った、平成27年倉敷市体育章について、表彰式後に追加の受章者を決定した。追加受章者は資料P3に記載の1人。追加を行った理由としては、体育章と同時に行ったスポーツ奨励章にて受章該当成績を収めていたが章のことを知らず、推薦が挙げられていなかった選手がおり、その選手が市長訪問をしていたことから、スポーツ振興課で情報を把握していたにもかかわらず表彰について教えてくれなかったということで選手の関係者から指摘が入り、課内で協議の上、当該選手への受章を決定するとともに、再度奨励章及び体育章の推薦募集を行った結果、体育章受章候補者として1人の推薦が挙がり、受章が決定したことによる。結果、平成27年倉敷市体育章受章者は当初の28名に1名が追加となり、計29名となった。また、平成27年倉敷市スポーツ奨励章受章者は、当初の73名に43名が追加となり、計116名となった。今回の件を踏まえ、平成28年の表彰については、こちらで情報を把握している該当選手には情報を提供のうえ推薦を促し、受章者に漏れがないよう心掛ける。

5 議事

議案第1号 倉敷市スポーツ振興基本計画（平成28年度事業）について
事務局から説明。以下説明事項の要点を記す。

【平成28年度会議スケジュールについて】

倉敷市スポーツ振興基本計画関連の会議スケジュールについて、資料P4を基に説明。

【倉敷市スポーツ振興基本計画の進捗管理について】

今年度の倉敷市スポーツ振興基本計画の進捗管理は“進行管理チャート（資料P5）”、“進行管理票（別資料3）”をもって行う。“進行管理チャート”は昨年度、後期計画に向けての見直しにあたり作成。「補助目標」の作成と補助目標の算出基準となる「数値目標」を設定したことにより事業の管理を明確に

した。また“進行管理票”についても、後期計画に向けて見直しを行い、前期の進行管理票から内容を変更した。特に大きな変更点として、数値目標を設定、また審議会による評価欄を設けた。

【計画推進部会で重点的に協議を進めて行きたい事業について】

今年度、“倉敷市スポーツ推進会議 計画推進部会”において、事務局として重点的に協議を進めて行きたいと考えている事業について説明。以下4事業。

- ・倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」について
- ・地域スポーツ活動支援センター（Spo サポ）について
- ・地域健康スポーツ教室について
- ・総合型地域スポーツクラブについて

【市民モニターアンケートの活用について】

スポーツ振興基本計画では“倉敷市第6次総合計画「まちづくり指標」”のデータにより、到達目標の管理を行っているが、前回会議において、当指標はスポーツだけでなく市全体事業のアンケートを取っているため、質問項目が非常に多く、回収率も低いため、信頼性が低いといった点から、活用しづらいという意見が挙げられた。それを踏まえ、今年度、市の市民モニターアンケート制度を活用し、スポーツに関するアンケートの実施を検討している。アンケートについては今後、審議会の委員に内容の確認を行ったうえで実施し、できれば第2回の審議会にて結果を公表したいと考えている。

【出席者意見（抜粋）】

矢田貝委員：（アンケートについて）回答の数としてはこのくらいであれば（資料「生涯学習について」のアンケート）比較的回答しやすいと思うのと、あと細かいところを聞けるとなると、今後スポーツ実施率とともに今後どういったスポーツをしたいのか。例えば頻度をあげたいが身近なスポーツ施設が無いであるとか言うところを聞ければ、これまで基本計画の中にあるような項目とリンクができるかと思う。どこに重点を置いてやって

いけばいいのかということが分かると思う。それからどういう人と一緒にスポーツをやっているのか。家でするのか、それとも施設で皆と一緒にやりたいということであれば、そういった施設が必要になるし、施設でなくて一般道でするとかサイクリングロードを使うといった回答が多ければそういったところに設備投資をしなければいけないと思うし、その辺が取ればいいデータになると思う。

松井会長：その辺事務局は新しい項目を設定することが可能か。

事務局：【吉原主事】項目の設定については今言われたようなことを設定することが可能である。少し踏み込んだ項目を設定したいとこちらも思っているので今言われたような内容を参考にしたい。

松井会長：安田委員，老人会の方からは。今高齢者の方も元気な方が多いが。

安田委員：老人会としては今のところスポーツとしてはグラウンドゴルフやペタンクの大会を行っている。倉敷全体を4ブロックに分けて地区で大会をしたり全体でも大会をしている。私は退職してから歩く会に入り，市民あるく日やツデーマーチにも参加している。今後も80ぐらいまでは頑張りたいと思う。

松井会長：そういった老人会の代表をされている元気な方のご意見もしっかりお聞きして。今，倉敷市内の未成年と65歳以上の比率はどのようなものか。さっきの矢田貝委員の話ではないが，そういうカテゴリーで見れば新しいデータが出てくるかもしれない。確かに若い世代いわゆる就学されている児童さん，生徒さん，学生さんに関してはやはり学校というところで部活で運動をやっている。しかしながら高齢者の方はどこでやっているのか。先ほどのグラウンドゴルフ，ペタンク，ウォーキング，それをまた年齢層で見ると面白いデータが発見できるのではないかと。また年齢区分，層のリサーチもしてもらいたい。

森 委員：地域で活動されているサロンというものがあって，だいぶ増えてきている。例えば老人団体が引っ込みがちな人を外に出す，地域の人がお互いに助け合ってやっている。ラジオ体操もしている。

松井会長：生涯スポーツに関しては各協会とは別に、総合型地域スポーツクラブなんかは新しいコミュニティの創出という大きなテーマに掲げている。となると先ほど森委員が言われたサロン活動，これは各学区のコミュニティ協議会なるものがされているんですよ。

森 委員：今推進しているサロンはコミュニティではなく健康づくり課が進めている。

事務局：【為房主任】ちょっと状況を報告させていただきますと，今倉敷市の庁内会議があり，その名前が「高齢者活躍推進地域づくりネットワーク会議」といって福祉部の包括ケア推進室を事務局として昨年立ち上がっている。その構成メンバーとしては我々スポーツ振興課，教育委員会，健康づくり課，また外部である高齢者支援センター，社会福祉協議会などいろいろな分野が一堂を会し，情報をまず，現状を共有していきましようという位置づけで始まっている。目的は今出たサロンを倉敷市でどんどん増やしていこうと。高齢者の居場所づくり，もちろんスポーツがきっかけの居場所もありますし，食事とか，話をしたりとかいう機会もあるかと思うが地域の方が元気になると。元気な高齢者の方が高齢者を支援していきましようといったような位置づけでもあるが，そういった動きが昨年立ち上がり，今年度も1回情報共有して，我々スポーツ分野の取り組み，また今日委員として来ていただいているスポーツ推進委員さんの存在というのをPRさせていただいた。今後の予定としては今サロンということで地域の人が活動されているが，どういったところでどういった活動をされているのかまず見える化していきましようということでガイドブックを作成しようとしている。また各地区8月から主に開催されるがサロン交流会というものを開いていきましようといったことや，市内全体での交流会フォーラムを開いていきましようという動きがある。そういった中ですでに話をしており，例えば今ラジオ体操という言葉が出たが，サロン交流会でスポーツ振興事業団の職員を指導員に，サロン向けのラジオ体操の講習会を開くような予定も今組んでいる。またスポーツ推進委員さんの皆さまにも賛同いただいて，地域における

健康づくり・体力づくりを推進していければと考えている。

松井会長：そこで活動をするということは予算はつくのか。

事務局：【為房主任】そもそもの考え方として、各部署が各々の事業をしている、まずはそれを把握しましょうと、それを有機的につなげることによって効果も倍増とかいった視点でまずはスタートしましょうと。そういった中でもし補完しきれない部分があれば新規事業をうっていくような方向になるかと思うが、今のところは各事業をつなげていきましょと、それで効果的になるように工夫していきましょと、いったような動きが今現状進んでいる状況である。

向井副会長：地域地域というが、地域とはどの辺のことを言っているのか。4地区のことを言っているのかそれとも小さい単位のことを言っているのか。

事務局：小さい単位である。

向井副会長：どの程度の大きさなのか分からない。

事務局：それを皆さんにお示しできるようにガイドブックを作っていこうというのがこれからの取り組みである。

安田委員：私のところは倉敷の新田だが、去年からサロンを1か月に1回している。1か月に1回だと忘れてら2カ月飛ぶということで、今年の5月から毎週月、水、金の3日間、1時から4時までやっている。(参加者から)100円もらってお茶やお菓子を準備し、老人会と町内のものが2人ずつ当番で出てお世話している。

松井会長：大学でスポーツ医科学を研究されている宮川先生いかがでしょうか。

宮川委員：今のサロンの話で言うと、もちろんいろいろなサロンができてきて、それぞれいろいろな活動をされているということで、見える化をというのは大事なことかと思うが、ただもう次に進むためにはそこで何をやっているのかということですね。そこで今高齢者が高齢者を支えあうということなので高齢者がある程度勉強していただいて、指導員の方もおられるが、いろいろな健康づくりに関する知識を得たりだとか実践ができるような、今我々がやろうとしているリーダー的な存在の人をつくってサロンで活躍できるような体制づくりということが1番大切なんじゃない

ないかなと思っている。ただそのためにはリーダーをつくるにはどうしたらいいのかということは今ほとんどシステム化されていないので、そこらあたりも見える化の次に重要な点じゃないかと思っている。

松井会長：実際に事業を開いていただいている松原委員いかがでしょうか。

松原委員：地域のサロンという話があったが、現在各地域で健康くらしき21推進会議というものがあって、地域で健康作りとかスポーツ活動を皆でやりましょうという住民組織の強力な組織がある。それは健康づくりをやっているけれど、健康づくりを通してスポーツ活動もやっている。そこはニュースポーツであったり競技スポーツまでいかないにしても、体を動かすことに対して今非常に熱心で、スポーツ振興課の業務と少し被るような業務もやっているの、新しく組織つくるとするのは非常に大変なので、すでに住民組織でそういう取り組みをしているようなところにスポーツ振興の分野を取り入れていって、健康とスポーツお互いに重なるところももちろんあるので、そういう組織を有効に活用していって各地区にスポーツを、体を動かして健康づくりをすると、そういう活動を根付かしていけば非常にいいんじゃないかと。実際、例えば水島のエンジョイスポーツの会というものがあり、ここは高齢者の方が中心となって1月に1回スポーツをしたりレクリエーションをしたりいろいろなことをしながら健康づくりを積極的にやっているような団体もあるので、こういったものを1つのモデルとして地域にどんどん落とし込んでいけると、引きこもりな高齢者の方もどんどん出てきて活動することができるのかと思う。

松原委員：ちょっと提案があるんですが。事業管理の27番に「スポーツボランティアの育成」という事業があるが、これはトライアスロンとかツーデーマーチ、楽天キャンプでボランティアとして協力してくれた方々の人数をカウントしていて、平成27年度4129人で30年には4300人。計画目標によるとボランティアの質を向上する、ボランティアの育成をするということもあったので、スポーツに関して通年で行事にボランテ

ィアとして参加しようという人を育てていくという取り組みを実施したらどうかなと思う。単発で来てくれるというよりは、いろいろなスポーツをやっているのにボランティアとして参加してみようかというふうなことで、できたらスポーツ情報サイトなんかでスポーツボランティアの登録制度みたいなものを設けて、そこで何かイベントがあるときに登録してやろうというような市民応援団、そういう人たちを育てていくことによってスポーツに対する関心、機運も高まっていくんじゃないかなと思うので、これも具体的な議論の俎上に載せていただければどうかなと思う。

松井会長：メディアの方から小野委員いかがでしょうか。

小野委員：メディアの方ではおかげさまでこちらから番組の時間をとっていただいて、微力ながらお相手をしながら皆さんにお伝えをするっていうのはやっているが、それを離れまして、モニターの方が1300人ぐらいっていうのは少ないように思える。人数的に偏りがあるのではないかなと思う。また地域格差というものもあるのではないかと感じている。

松井会長：やはり我々が審議会で審議することは成人の週1回以上のスポーツ実施率を50%に上げようと、これが大きな目標である。もう一方では競技スポーツの国体へ参加される貴倉敷市選手を200人。やはりこの50%を達成することは倉敷市のいわゆる健康、スポーツ＝健康ということがベースになると思う。やはりいい事業これだけ33つくって後期32年まで入るわけですから、もう少し内容を掘り下げていただいて、例えば今回推進会議なるもので大きな項目が4つ、スポーツナビ以下あるが、やはりスポーツナビで発信するだけでなくキャッチボールができるようなスキーム作りというかソフトをしっかりと構築していただければ今ご意見いただいたことも多少なりとも消化できると思う。それがひいては倉敷市の行政が、スポーツ振興課がスポーツ行政に一生懸命に取り組んでいるという姿が市民の方に伝わると思うので、せっかくいい事業を

やっているので発信の方法あるいは受信の手段を、少しソフトを研究していただいていいものを作っていただければと思っている。

今回新しく委員になられた方が3名おられますので。今までは平成23年から27年までが前期というもので、スポーツ推進審議会、スポーツ振興基本計画を作成をした。これからは28年から32年はもう少し各項目を掘り下げていただいて、内容の濃い、質の高いものをつくっていきましょう。その大きなベースが生涯スポーツの推進であり、競技スポーツの推進であるのでそれぞれの所属、担当の立場でご意見をいただければと思っている。

松井会長：これは全部の事業で33事業があるが、予算規模が全然載っていない。今までも前期も。特に今年から後期に入り新しい事業もあるがその辺の予算的なものは。予算予算と私がそんなことばかり言って失礼だが、予算がないとやはり事業は推進できないので。その辺を次回から、スポーツ教室の開催っていうのはこのくらいの事業でやっているとか、スポーツ少年団という事業に対してこのくらいの予算でやっているとか、その辺の金額が分かればお願いしたいと思っている。

それから今日教育委員会の方からも来られているが、今東京オリンピックに向けて国はスポーツ庁ができて、生涯スポーツ、競技スポーツ、あるいは障がい者のスポーツ、それを全部各省庁が横断的にスポーツ庁を組織しているが、倉敷市は本誌においては今後、今年の会議ですかね、国の動向を踏まえて検討させていただくというご意見も事務局からお聞きしたと思うが、その辺は倉敷市の方はどうか。

事務局：【北島課長】推進会議等で松井会長からご意見をいただいている。スポーツ庁のように厚労省の部分と文科省の部分、それから外務省の部分であるとか経産省の部分、すべての部門が1つになってスポーツを推進していくというのは理想的な組織であると思う。今現在倉敷市の方で組織が合体して事業を推進していくのは今すぐは難しいと思うが、私共が今後5年間でやっていこうとしておりますのは各部局、各関係団体との連

携を深め、無駄な事業をしない、必要とされている事業をやっていく、そうしていくことが私共の今後5年間の仕事だと思っているので、組織を国のようにするというのはなかなか現実的には難しいと思うが、そういった部分で各団体と連携を図ってスポーツの振興を進めていきたいと思っている。

松井会長：ぜひお願いしたいと思う。せっかく新しくお3方に審議会の委員になっていただいたということで、1つの事業をやるのに前期の5年で何が必要で何が大切か、その大切だと思うことをさらに高みにもっていくためには何が重要かということは効果、効率、スクラップアンドビルドと言うんですか、行政がよく言われるそういうこともございますので、32年にこの数値を達成するためにはやはりこういうところも必要になると思っています。これには事業の12番に障がい者スポーツの普及・推進というものもあるので、できましたら次回からやはりこういうふうな行政も変わったよというようなところで、障がい福祉の方のご意見もお聞きしたいので、ぜひご出席いただければ、行政の方も変わってるんだなということになるし、委員の方からもご意見ご質問等出ると思いますのでよろしくお願いします。

6 その他 平成28年度の倉敷市のスポーツに関する取り組みについて
事務局から資料を基に説明。

7 閉会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 向井 彰